

企業分析と非営利組織の会計

グローバル・ビジネス研究科 教授 山 口 不 二 夫

1. 研究内容

経営分析の方法と非営利組織の評価方法を習得することを目的とする。経営分析の基礎理論の学習とデータによる経営分析をおこなう。非営利組織を含む経営分析に必要な業界分析も学習する。

経営分析の第1歩として財務諸表分析についての理論的テキストを輪読する。そのうえで各自、分析対象企業を決め、データ収集(有価証券報告書総覧、営業報告書やホームページから)、趨勢分析、比率分析、企業評価をおこなう。さらに業界の分析、ライバル企業の分析をおこなう。

個別企業の分析にあたってはプレゼンテーションをおこない、そのあとの討論を経て、課題を発見し分析を進める。何回かこのような作業をおこない分析を深める。

これは4年次の課題となるが、財務諸表分析を習得した後は、いくつかの発展方向が考えられる。それは①業界ごとの企業評価方法の発見、②企業評価で鍵となるデータの質の点検(粉飾の発見)、③財務データを生み出した会計処理・基準についての考察、④財務データ以外の企業評価方法の研究、⑤非営利組織の評価方法などである。これらのテーマを深めることで卒論作成の手引きとしたい。

担当教員は明治時代以降の三井、三菱系企業、17世紀以降の英国の東インド会社等の会計書類を研究している。その他、現代の営利企業の分析、大学・病院、博物館、オーケストラなどの分析を手がけている。知的財産や人的資産、組織資産など無形資産の測定と開示方法の研究も行っている。

2. ゼミの進め方

3年間を通じて、ディスカッションを重視し、知的能力とその受容力・発信力を高める。

《2年次》

前期：広範囲のディスカッションにより経営のセンスを磨き、ゼミ意識を高める

その後、企業会計と経営分析の基礎の学習。

後期：引き続き、上記学習とケースによる企業の財務資料の読破。

《3年次》

前期：ケースによる企業分析の学習。後期：企業分析資料の収集と発表。

《4年次》

前期：企業分析レポートの作成を指導。後期：各自報告をおこなう。かつ業界分析に展開する。

3. 教 材

山口著『企業分析』白桃書房(絶版)、パレプ他『企業分析入門』東京大学出版会
現在、テキストを準備中である。その他、授業中に資料を配付する。

4. 成績評価の方法

出席とレポート・報告、ゼミへの貢献度について総合的に判断して決定する。

5. ゼミ入室試験(選考方法)

選考方法は、各Oh-o!Meijiグループの概要欄を確認すること。

15人を超えた時は志望理由書等により選考を行うことがある(コロナ禍感染状況による)。

詳細はガイダンス時に発表する。

6. その他・志願者へのメッセージなど

財務データ分析を熟知することは、現代社会を読み解き、社会に意見を発信していく基礎力となります。広く関心をもっている学生を歓迎します。Excelの使用ができることが望ましいです。

卒業生には公認会計士、税理士、公務員、教員が多数います。司法試験合格者もいます。資格試験受験者には学習にあたって相談の上、さまざまな便宜を図っています。ゼミの神髄は人間関係やネットワークの醸成です。随時、卒業生とのイベントを開催しています。山口ゼミは3ヵ年では終わりません。一生モノです。卒業後も連絡が取れるようにしてください。